



望洋台小だより



<学校の教育目標>

- 自ら考え工夫する子 ○思いやりのある優しい子
- 進んで行動しやりぬく子 ○明るく健康な子 ○協力し働く子

学校 HP

R8. 2. 27 No.11

(通算 590 号)

残 心

教 頭 山 田 晃 弘

「剣道」に親しんでいた経験を話すと「へえーすごいね」と褒めていただくことがあります。しかし、実際は初めこそ「楽しいなあ」「おもしろいなあ」と思っていたのですが、だんだんと練習が面倒になったり、ケガをしたりと苦い思い出が多く、どちらかと言うと球技に憧れていたというのが本音です。そんな中途半端な気持ちの表れか、当然試合では勝てず、モヤモヤした気持ちを募らせていた小さい頃の私は、先生から「お前は残心（ざんしん）ができていない！」と厳しい一言をもらったことがあります。

剣道は、相手から一本を取らなければなりません。一本を取るためには次の3つが必要になります。それは、「適正な姿勢」「刃筋が正しい打突」「残心あるもの」です。要は『きれいなフォームで、相手の面や小手等を正確に打ち、その後もきれいなフォームで打ったことをアピールする』ということになります。恥ずかしながら、当時の私は「打ち込んだ後もしっかりとしたらいいのかなあ」としか思っていないでした。後に「残心」を詳しく調べてみると、

心が途切れないという意味。意識すること、特に技を終えた後、力を緩め、くつろいでいながらも注意を払っている状態を示す。

ということが分かりました。武道で使われる言葉には本当に奥深さを感じます。

3学期に入り、本校ではこれまで以上に子どもたちの安全確保を最優先に取り組んでいます。暴風雪などの荒天が予想される際には、子ども達の登下校時の危険を避けるため、臨時休校の対応を行いました。また、冬季にも火災を想定した避難訓練を実施し、いざという時に自分の身を守る行動ができるよう訓練を重ねています。併せて、学級活動や全校朝会では、日常生活で注意すべき点や安全に過ごすための心構えについて継続的に指導を行っています。

災害や事故は、いつどのような形で起こるか予測することができません。どれほど用心していても、思いがけないケガにつながることもあります。しかし、一人一人が日頃から安全への意識を高め、行動を少しずつ見直していくことで危険を確実に防ぐことができると考えます。

剣道における「残心」の姿勢を大切に、物事をやり終えた後や安心した瞬間にも油断せず、周囲への注意を怠らない心を育てていけたらと思っています。3学期も残りわずかとなりましたが、子どもたちが毎日を安全に安心して過ごすことができるよう、学校全体で支えて参ります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



避難訓練で、消防署職員の方から、子ども達が集中して避難できたことを褒めていただきました。



3学期始業式で、校長先生から安全に学校生活を送ることの大切さについて話がありました。

スキー学習終了

本年度のスキー学習は、5・6年生が1月20日、3・4年生が1月26日に朝里川温泉スキー場で行い、2年生は1月30日、2月13日に、1年生は2月10日、16日にグラウンドで実施し、全学年の学習が終了しました。3～6年生は技能に応じてグループに分かれ、それぞれのレベルに合ったコースで滑走を重ね、意欲的に学習しました。1・2年生も着脱練習を経て、レベルごとにグラウンドで歩行や滑走の基礎に取り組みました。寒さの厳しい日もありましたが、どの子ども目標をもって練習に励み、技能の向上が見られました。道具やお弁当の準備など、保護者の皆様には多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



3学期・保護者会

2月17日（火）は1・2年生、18日（水）は5・6年生、20日（金）は3・4年生の保護者会を実施しました。5時間目の授業参観では、道徳・国語・算数・体育等の学習の様子をご覧いただきました。どの学年でも、子どもたちが学習に真剣に向き合い、自分で考え主体的に取り組む姿が多く見られました。その後の懇談会では、担任からこの1年間の子どもの成長の様子をお伝えしたほか、進級に向けての準備、次年度のPTA活動の担当について説明を行い、充実した話し合いの時間となりました。保護者の皆様の温かいご理解とご協力のおかげで、子どもたちは大きく成長することができました。今後とも本校の教育活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



4年生「いのちの授業」

2月17日（火）4年生を対象に「いのちの授業」を実施しました。小樽協会病院産婦人科医の黒田先生と奥様をお招きし、思春期に起こる心と体の変化について、専門的な立場から分かりやすくお話いただきました。授業では、男女それぞれの体の成長の様子や、健康に気を付けるべき点について丁寧に説明していただきました。また、産婦人科医としての経験から、命が誕生するまでには多くの大変さと同時に大きな喜びがあること、周囲の支えによって命が育まれることなど、子どもたちにとって大切な学びとなる内容を伝えてくださいました。授業後、子どもたちからは「とても勉強になった」「お母さんに感謝したいと思った」などの感想が多く聞かれ、命の尊さを実感する貴重な時間となりました。黒田先生、奥様、ありがとうございました。



全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より

5年生が実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の結果が出ました。5年生男子は、握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びで全国平均値を上回り、長座体前屈、ソフトボール投げで全国平均値を若干下回りました。5年生女子は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立幅跳びで全国平均値を上回り、ソフトボール投げで全国平均値をわずかに下回りました。男女とも持久力の向上がみられますが、「瞬発力」に課題がみられます。学校では、体育の授業の中で運動量を確保したり、さまざまな運動能力を高めるため運動コーナーを設けたりしています。また、よりよい生活習慣を育めるよう全学年で生活リズムチェックの取組を行い、自身の生活を振り返っています。先日行ったチェックでは、家庭学習の時間が減少していることが分かりました。学習習慣の乱れは、基礎学力の定着にも影響します。本校では、今後も生活リズムの見直しを促しながら、時間の使い方を工夫する「タイムマネジメント力」の育成に取り組んでいきます。ご家庭でも、就寝時刻や学習時間の確保等、日々の生活を整えるための声かけをお願いします。